

第9期 pES club シナリオ 3

平成22年3月28日
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巣医科大学附属病院総合診療科に勤務する2年目研修医です。今日は初診外来を担当しています。

矢張維丸さん（35歳男性）は健診異常で初診外来を受診しました。

あなた「人間ドックを受けて、異常があったということですね？」

矢張「そうなんです。胃癌の健診で、ペプシノーゲンというのが低かったので、胃癌の疑いがあると言われたんです」

あなた「そうですか。ペプシノーゲンⅠが29.2ng/ml、ペプシノーゲンⅡが15.3ng/ml、ペプシノーゲンⅠ／ペプシノーゲンⅡが1.9で陽性だったのですね」

矢張「ただの陽性ではなくて、強陽性だってありました」

あなた「あ、そうですね。．．他の検査は全然異常がありませんね。ピロリ菌の検査も陰性だったのですね。．．ところで、どうしてペプシノーゲンを測ったのですか？」

矢張「いや、最近では胃癌は採血で分かりますと言われたので、それを測ってもらうことにしたんです。でも、あんな採血だけで、胃癌があるかどうかなんて本当に分かるのかなあ。強陽性だから胃癌かも知れないって言われて、ドキドキして眠れなくなっちゃいました」

あなた「そうですね。採血だけではっきり分かるわけではないと思いますので、要精査という結果も出ていますし、胃癌がないかどうか、一度胃カメラで調べてみましょう」

矢張「はい、ぜひ胃カメラの予約をお願いします」

そういえばあなたは、最近、健診やドックでペプシノーゲンを測定され、胃癌の疑いで要精査と言われて初診外来を受診する人が増えているように感じていました。矢張さんの話を聞いて、ペプシノーゲンの値が高いと胃癌と診断できるのか、スクリーニングとして用いるのに妥当なのか疑問に思い、調べてみることにしました。

第9期 pES club シナリオ 3 (追加シナリオ)

平成22年3月28日
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

矢張さんには現在、特に自覚症状はありません。仕事から生活が不規則で、食事はとれるときに急いでかき込むような状況ですが、もともと食べるのが好きなので、どんなに忙しくても食事を抜くようなことはしません。どちらかというとも魚よりは肉が好きです。お酒は弱いですが、付き合いもあるので、仕方なしに飲んでいきます。タバコは1日10本、大学受験の浪人中に覚えました。

21歳の時に急性虫垂炎を起こして虫垂切除術を受けましたが、それ以外は特に大きな病気をしたことはありません。また、現在、何か病気があるって医療機関を定期的に通院していることもありませんが、3年前から春先に花粉症が起こるようになり、その時期だけ薬を使うそうです。

矢張さんの父親は胃癌で手術をしたことがあります。手術の後、ダンピング症候群でたびたび具合を悪くしていたのを見ていたので、自分も胃癌になるのは嫌だなと思っていました。母親は脂質異常症で病院に通院しています。